

# これからの福岡市の教育がめざす姿

## めざす子ども像（教育の目標）

### やさしさとたくましさをもち ともに学び未来を創り出す子ども

- 基本的な生活習慣を基盤とし、いきいきと学び遊ぶことを通して、確かな学力・豊かな心・健やかな体などの生きる力を身に付け、主体的に行動できる子ども
- 思いやりや命を大切にす気持ちを持って行動できる子ども
- チャレンジする意欲を持ち、将来の夢や希望に向かって粘り強く取り組む子ども
- 郷土福岡や日本の自然、歴史、伝統・文化を愛し、守り伝えるとともに、アジア・世界の国・地域の様々な価値観を認め、社会の一員として活躍する子ども

## 福岡スタンダード ～福岡の子どもたちに大切にしてほしいこと～

### 生活習慣の柱

あいさつ・掃除

### 学びの柱

自学・とも学

### 未来への柱

チャレンジ・立志

## 子どもをはぐくむ（導く・支える・守る）各主体の姿や役割

### ＜あるべき学校像＞

- ・子どもの権利が大切にされ、児童生徒一人ひとりが存在感を実感できる「安全安心な学校」
- ・児童生徒が主体的に学校づくりに参画する「魅力ある学校」
- ・学校の自主性を生かし、校長の運営方針のもと、教職員がめざす姿を共有し「成長に責任を持つ学校」
- ・教職員が互いに切磋琢磨し「指導力を伝承する学校」
- ・保護者や地域・企業等と連携し「ともに創る学校」

### ＜あるべき教員像＞

- ・向上心を持ち、子どもの学ぶ意欲と学力を高める学習指導ができる教員
- ・人権感覚にあふれ、子ども理解に基づいたあたたかい生徒指導ができる教員
- ・危機管理意識を持ち、子どもの生命や身体の安全を確保できる教員
- ・協調性を持ち、同僚や保護者・地域等と協働しながら教育活動を推進できる教員
- ・社会性を備え、法令を遵守しながら体罰や飲酒運転等の不祥事を根絶できる教員

### 「共育」

それぞれがそれぞれの教育活動の主体として、責任を持つとともに、社会に開かれた教育課程の実現を図る。連携を深めることにより、

### ＜望まれる家庭の役割＞

- ・子どもが基本的な生活習慣と規範意識を定着させることができる家庭
- ・愛情と信念を持って子どもの成長を見守り、子どもとともに成長する家庭
- ・家族が協力して家事や子育てに取り組む家庭
- ・地域の行事などに家族で参加し、地域とともに子どもをはぐくむ家庭

### ＜望まれる地域・企業等の役割＞

- ・子どもが健全に成長するよう守り、はぐくむという観点から、積極的に教育活動に協力し、参画する地域・企業等
- ・地域の特性を生かし、多様な子どもや家庭を受け入れ共生する地域

## ＜教育委員会事務局の責務＞

- ・学校現場とともにいじめ等の課題解決に積極的に取り組む教育委員会事務局
- ・家庭や地域の取組みを支援する教育委員会事務局
- ・課題等に柔軟に対応できる組織体制を整備するとともに、市の他部局や関係機関等とも連携し、情報発信を行う教育委員会事務局
- ・客観的な根拠に基づくPDCAサイクルを確立するとともに、真に必要な教育投資を実行する教育委員会事務局

## (1) めざす子ども像

今回、教育の目標となるめざす子ども像として設定した「やさしさとたくましさを持ち ともに学び未来を創り出す子ども」は、子どもの現状や社会の変化を踏まえ、今後6年間にわたってはぐくむ目標を明確にしたものです。変化の激しい社会の中においても、子どもたちの他者を思いやるやさしさや、たくましく生きる力を持ち、多様性を認め、様々な人とともに学び、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくことができる力をはぐくんでいきます。

「確かな学力(知)」「豊かな心(徳)」「健やかな体(体)」などの生きる力を身に付けるため、いきいきと学び、いきいきと遊ぶ取組みを推進し、主体的に行動できる子どもをはぐくんでいきます。

他者とともによりよい社会を築くため、一人ひとりが思いやりや命を大切にする気持ち、確かな人権感覚を持ち、国籍や年齢、性別、性的指向や性自認、障がいの有無などにかかわらず、自分を大切に思い、同時に他者の大切さも認めることができる子どもをはぐくんでいきます。

将来に夢や希望を持つことは、学ぶ意欲の原動力につながります。チャレンジする意欲を持ち、将来の夢や希望に向かって粘り強く取り組む子どもをはぐくんでいきます。

世界と深いつながりを持ち、国際化した社会を生きる子どもたちには、日本だけでなく、アジア・世界の国・地域という視点を持ちながら共生していくことが求められます。そのためには諸外国に対する理解を深めるとともに、これまで以上に郷土福岡や日本の自然、歴史、伝統・文化に対する理解を深める必要があります。

## (2) 福岡スタンダード

### ～福岡の子どもたちに大切にしてほしいこと～ 「あいさつ・掃除」「自学・とも学」「チャレンジ・立志」

子どもが社会の中でよりよく生きていくためには、人や社会・環境等との関わりの中で「社会的自立の基礎」をはぐくんでいくことが大切であり、そのためには人間形成の土台となる「基本的生活習慣」をしっかりと築く必要があります。この「基本的生活習慣」を基盤として、確かな学力、豊かな心や健やかな体などの生きる力や、夢や目標の実現に向かって進む力が身に付いていきます。

これまで取り組んできた福岡スタンダード「あいさつ・掃除 自学 立志」は、「あいさつ・掃除」をキーワードとした就学前からの基本的生活習慣づくりに始まり、子どもの発達段階を踏まえながら、「自学」そして「立志」へと系統的な定着を図ってきました。

今後は、一人ひとりが自らの個性を生かすとともに、多様な人々と共に関わっていこうとする態度(=「とも学」)が求められます。また、「立志」については、発達段階に応じて、様々なことに興味を持ち、取り組んでいこうとする態度(=「チャレンジ」)が大切になってきます。

そこで、これまで取り組んできた福岡スタンダード「あいさつ・掃除 自学 立志」を発展的に見直し、生活習慣の柱「あいさつ・掃除」、学びの柱「自学・とも学」、未来への柱「チャレンジ・立志」として進化させ、福岡の子どもたちに大切にしてほしい態度として新たに示しています。

各学校においては、福岡スタンダードで示した3つの柱について、教育の適時性と順次性を踏まえ、子どもの発達段階に応じて、重きを置く柱や取組みを変化させ、子どもたちをはぐくんでいきます。

福岡スタンダード「あいさつ・掃除」「自学・とも学」「チャレンジ・立志」は、大人になっても社会の中で生きていく上で大切なものであると考えています。

就学前 小1 中3 高校

#### 発達段階に応じた系統的な取組み

早寝・早起き・朝ごはん

#### 生活習慣の柱

**あいさつ**：よりよい人間関係を築こうとする態度

**掃除**：自分の役割を積極的に果たそうとする態度

#### 学びの柱

**自学**：自ら学ぼうとする意欲を持ち、主体的に学びに取り組もうとする態度

**とも学**：友と共に、知識や知恵を身に付けながら学ぼうとする態度

#### 未来への柱

**チャレンジ**：様々なことに興味を持ち、取り組もうとする態度

**立志**：夢や目標を持ち、その実現に向かって進もうとする態度

## ① 生活習慣の柱

基本的生活習慣は、人間のあらゆる態度や行動の基礎となる大変重要なものです。これまで全市民的に取り組んできた「あいさつ・掃除」に継続して取り組み、子どもたちの基本的生活習慣の確立をめざします。また、「あいさつ・掃除」の定着により、その他の基本的生活習慣の確立にもつながっていくことが期待されます。

あいさつ	「あいさつ」は、他者とのよりよい人間関係を築く第一歩であり、基本的生活習慣の中でも最も重要なものです。「あいさつ」は、世界共通のコミュニケーションで、お互いを大切に思う心の現れです。
掃除	「掃除」は、身の回りを整えるなどの基本的生活習慣を形成するとともに、自分の役割を積極的に果たそうとする態度を育てます。さらに、責任感や公共性などの伸長にもつながることが期待できます。

人間関係形成力と  
責任や義務を  
果たす心の醸成

## ② 学びの柱

意欲を持って自ら学ぶことは、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を身に付ける上で、とても重要なものです。特に、小学校の初期段階では、「分かった」「できた」など、学ぶ楽しさを味わうことで自信となり、一層高まっていきます。そして、学年が進むにつれて、自分の目的意識や目標が明確になり、目標を達成するために苦しさも乗り越えて学習していこうとする意欲へと高まっていくのです。それを「自学」というキーワードで表してきました。

さらに、しっかりと自分の知識や考えを持つことによって、「友だちの考えも聞いてみたい。」「考えを比べてみたい。」という意欲へとつながります。そして、「友(とも)」と「共(とも)」に対話的に学ぶことで、深い学びへとなっていきます。それを「とも学」というキーワードで表しています。「自学」と「とも学」は双方向的な関係にあり、互いに高めあうことで、子どもたちの確かな学力の向上が図られていきます。

自学	「自学」は、自ら学ぼうとする意欲を持ち、主体的に学びに取り組むことです。そのことによって、学びが充実し、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を身に付けることができます。
とも学	「とも学」は「友(とも)」と「共(とも)」に、知識や知恵を身に付けながら学ぶことです。自学によって高まった学びへの意欲は、他者との協働へとつながります。他者との対話的な学びにより、深い学びへと深化し、さらに自学の意識も高められます。

主体的・対話的な学び  
による、学びの深化

### ③ 未来への柱

進路や将来の目標を定め、それを成し遂げようとすることは、社会の一員としての自覚を持ち、自分のよさや個性を社会の中で積極的に生かし、貢献しようとする態度の育成につながります。このことを「立志」というキーワードで表してきました。

今後は、より一層、子どもが社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していこうとすることができるよう、子どもの発達段階に応じて、その態度を育成していくことが求められています。

そこで、自分の夢や目標を見つけるための第一歩は、様々なことに興味を持ち、「やってみたい」「してみよう」という好奇心、そして、どんなに小さなことでも挑戦していく態度ではないかと考えました。それを「チャレンジ」というキーワードで表しています。子どもたちのチャレンジ精神は、将来について志を立てる「立志」につながるための大切な要素となります。

チャレンジ	「チャレンジ」は、様々なことに興味を持ち、積極的に取り組もうとすることです。知的好奇心や探究心を持って挑戦することは、自分の可能性を引き出すために重要であり、将来を見つめることへとつながっていきます。
立志	「立志」は、自分の夢や目標を持ち、その実現に向かって進もうとすることです。自分と向き合い、志を立てることは、未来を創り出す原動力となります。

これからの社会を創る  
原動力の育成